

第3回 第3次石狩市漁業振興計画策定委員会 議事録

日 時：令和3年11月29日（月） 14：00～15：30

場 所：石狩市役所 4階 401会議室

出席者：次のとおり

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
委員長	廣原 正康	○	委 員	清水周一郎	○
副委員長	和田 郁夫	○		鳴海 翔	○
委 員	蛭谷 勝浩	○		木村 誠	○
	伊藤 誠	○		釣本 明雅	○
	藤巻 信三	○		佐藤 公彦	○
	中井寿美子	×		野村 彩夏	○

事務局：企画経済部産業振興担当部長 本間 孝之
企画経済部林業水産課長 相原 真一
企画経済部林業水産課主査 佐藤 光弘

傍聴者：なし

- 議 事：1 開会
2 委員長挨拶
3 議題
(1) 第3次石狩市漁業振興計画のアンケート調査について
(2) 第3次石狩市漁業振興計画（案）について
(3) その他

4 その他
5 閉会

議事録（要点筆記）

1. 開会

- ・省略

2. 委員長挨拶

- ・省略

3. 議題

（1）第3次石狩市漁業振興計画のアンケート調査について

事務局 佐藤主査

- ・第2回策定委員会後に石狩湾漁協の協力を得ながらアンケートの回収を進め、最終的に60件、57.1%の回収となりました。また、第2次計画策定時と同様な設問については結果も比較として記載しています。

アンケート結果について資料を基に説明。

廣原委員長

- ・アンケート結果についてご意見等はありませんか。
なければ「第3次石狩市漁業振興計画（案）」について説明をお願いします。

（2）第3次石狩市漁業振興計画（案）について

事務局 相原課長

- ・説明の前に過日委員各位に配付した計画案について、「1章 漁業振興計画策定に向けて」の趣旨の部分に情勢等を追加したので差し替えます。これに伴いレイアウト変更などの都合から2ページから4ページまでの差し替え資料を机上に配付しています。内容は漁業法の改正や漁業情勢、新型コロナ対応、カーボンニュートラルなど6項目を追加しています。

①「第1章 漁業振興計画策定に向けて」

第2回策定委員会の素案からの変更点として、今回同じく改訂を進めている産業振興関連の4計画について連携して産業振興を図る旨を追加しています。目指す姿の中に数値目標として示していた生産の目標を削除しています。次に目指す姿の中で計画の体系を示しました。この体系は第2次計画の7項目を基本として項目内の分類を統合整理し、第3章以降の課題整理及び漁業振興対策の基礎としています。計画期間は前回説明のとおり10年とし、進捗管理の中で中間年の評価と必要に応じて見直しすることとしています。最後にSDGsの持続可能な開発目標について、本計画でも取り組みに位置付けています。

廣原委員長

- ・第1章についてご意見等はありませんか。

和田委員

- ・6ページの「12. つくる責任つかう責任」とはどのようなことですか。

事務局 相原課長

- ・SDGsの目標にはいろいろな項目がありますが、例えば加工品の開発にあたり作る側の責任などが生じると考え、振興対策の中で関連するであろう項目に関連付けて記載しています。

事務局 本間部長

- ・作りすぎない、資源を大事に使うといったことです。

廣原委員長

- ・無駄なものをできるだけ省きましょうといった考えだと思います。
他に何かありませんか。なければ「第2章 石狩市の漁業の現状」について説明をお願いします。

事務局 相原課長

②「第2章 石狩市の漁業の現状」

前回の策定委員会で頂いた意見等を踏まえ、表記の見直しや追記及びグラフの整理を行いました。共同漁業権区域の説明で石狩湾漁協が単有する区域と、石狩湾漁協、小樽市漁協、余市郡漁協、東しゃこたん漁協の4漁協が共有する区域とが重複する部分について表記を見直しました。

「1 石狩市の漁業」でナマコについて追記し、「3 漁業経営状況」で漁協組合員数、漁船隻数に全体的な傾向を記載し、11 ページの経営体数の部分で、さけ定置網漁業の生産組合について追記し、20 ページ「②にしん刺網漁業」で表記を見直しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大により水揚量に影響のあったホッキガイやナマコについてその旨の追記をし、25 ページのヒラメの種苗生産が始まった年を平成7年から8年に修正を行い、26 ページのほたてがい養殖業について出荷先を追記し具体性を上げました。

廣原委員長

- ・1 から6 までの項目について何かご質問等はありませんか。

廣原委員長

- ・12 ページの(4)の一番下「います。(図-11)」となっていますが、この句読点を最後につたほうがいいと思います。16 ページ「4 漁業生産状況」の中で「トン」の表記が半角と全角が混在しているので表記を統一してください。17 ページ表-1の下に「陸揚げされた魚介類」とありますが、「陸揚げ」は貨物船などで運んだものを陸に上げるという意味も含まるので「水揚げ」で統一してください。18 ページ以降の部分で、例えば「①さけ定置網漁業」については2 段落目の「令和2年の経営体数は12 で」とありますが「12 経営体」として以降〇〇経営体と表記を統一してください。23 ページ「⑤なまこ漁業」の9 行目「19 年度から人工種苗放流に向けた試験放流」と記載していますが、現在は事業化して放流している地区も多数ありますので「人工種苗放流が行われているほか」として、浜益地区での取り組みについて「浜益地区では漁業者自ら採苗し放流しており、効果に期待が寄せられています」といった形で追記してください。

蛭谷委員

- ・18 ページ「①さけ定置網漁業」3 行目の「平成2年には水揚量で約4,000 トン、水揚高で約15 億円

とともに最大値を示しました」となっていますが、グラフを見ると平成7年度が4,600トンなので表現が違うと思います。また、「平成29年には価格の高騰により14億円を超え過去最大の水揚げとなりました」とありますが、前段でともに最大値と表現しているので修正してください。

廣原委員長

- ・他に何かありませんか。なければ「第3章 課題の整理」について説明をお願いします。

事務局 相原課長

③「第3章 課題の整理」について

課題の整理の前段に、アンケートの概要を追記しました。アンケートの再集約にあたり漁協の協力により回収率が上がり精度が向上したと思っています。アンケートの集計と分析は佐藤の方から説明しましたが、アンケート項目の継続や追加の基本的な考え方と基礎的な概要を記載しています。

課題整理に当たっては「第2章 石狩市の漁業の現状」に見られる統計データや各種事業等の実績及びアンケート調査から見える状況を体系に基づいて整理しています。漁業生産高やアンケートから種苗放流による資源維持の重要性と必要性、それに関連する環境保全そして流通や販路の重要性などが伺えます。これらは、これまで取り組んできたものも多くその継続が重要と考えます。

アンケートでは後継者の有無に関連して10年後の漁業従事見込みや経営についての項目を追加しています。結果からは6割の方が「10年後も変わらず従事している」と回答していますが後継者がいる方は2割程度となっています。経営を引き継ぐつもりがない方が6割と「将来の担い手不足への懸念が残ります」と記載しましたが、アンケートの再集計により割合が変わっていることからこの部分について、該当者がいれば経営を引き継ぎたい方も4割となっており「事業継承の検討が今後重要になると考えます」に訂正しています。アンケートの再集計によりアンケート問12の継承や、問7の今後の取り組みについての回答割合に若干の変更が見られますが、全体的な傾向としては大きく変わっていません。

廣原委員長

- ・第3章について意見等はありませんか。

細かい話になりますが36ページ以降に写真が掲載されていますが、第2章の図表と同様に説明文の後に(写真〇)と追記してください。39ページ「①良好な漁港環境の整備」の1行目から4行目までが、32ページ「5石狩市の漁港」と同じ内容なので省いてもいいと思います。省くと文脈が変わるので「最善な漁港利用を図るため漁業者から寄せられている要望については次に示します」といった形で表と写真を載せてはと思います。

和田委員

- ・40ページの表の石狩湾新港の部分に上架施設の整備を追記してもらいたい。浜益には上架施設がありますが、船体の大型化により対応できないものもあり、石狩湾漁協としても早急な対応が必要だと考えています。

事務局 相原課長

- ・内容を確認させていただいて追記したいと思います。

蛭谷委員

- ・同じく 40 ページの確認ですが、濃昼漁港で「港内の静穏性を保つための防波堤の延伸や沖防波堤の建設」と記載されていますが、これまで濃昼漁港の要望として求められているのは防波堤の嵩上げだと思うので確認願います。浜益漁港の「遊漁船、釣り人の規制」とありますが、遊漁船の規制とはどういうことでしょうか。

事務局 佐藤主査

- ・プレジャーボート係留の関係だと思えます。当時浜益漁港では許可数以上の申し込みがあったためこのような表現になっていると思えます。
現在は許可数を超過しておりませんので内容について再度精査したいと思います。

廣原委員長

- ・この件については再度精査するという事でお願ひします。実際に漁港を利用されている委員の方からごさいませんか。これから 10 年の基本計画となりますのでお願ひします。

和田委員

- ・毎年漁港行政連絡会議で要望しているが、予算の関係なのか優先順位なのか整備が進みませんので引き続き要望していきたいと思ひます。漂流漂着物の関係で、台風や降雨の時期には漁港内の斜路等に大量の流木やがれきが入ってきます。留萌地区では流木と船が衝突して船体に損傷を受けたこともあります。漁船で回収して漁港内に一時的に置いたりしていますが、処理に数カ月掛かっています。操業活動に支障があるので迅速な対応を強くお願ひします。

事務局 相原課長

- ・市が対応できる部分、国や道にお願ひしなければならない部分の整理が必要かと思ひます。47 ページ「④ 漂着, 流下物対策」の中で内容の検討をしていきたいと思ひます。

廣原委員長

- ・他にごさいませんか。和田委員からのご指摘を検討するという事で話をまとめたいと思ひます。「第 4 章 漁業振興対策」について説明をお願ひします。

事務局 相原課長

④「第 4 章 漁業振興対策」について

本計画の体系として 7 分類に課題整理し、目指す姿の実現に向けた取り組みとして振興対策を示しています。「第 3 章 課題の整備」でも説明したとおり、これまで継続して取り組んできたものも多く、それらの継続を基本としながらアンケートに見られる養殖の幅を広げるような陸上養殖を含めた調査研究や、担い手についての事業継承の検討を新たに盛り込んでいます。

「(1) 漁業振興対策」では 45 ページつくり育てる漁業としてサケやニシン、ヒラメ等の栽培漁業は石狩の漁業でも重要であるため「① サケニシンの資源維持」や「② ナマコ, ハタハタの資源安定化」そして「③ ホタテの養殖」それから浜益区で取り組んでいるワカメやカキといった新たな資源化に向けた取り組みやその支援について記載しています。また「④ 内水面漁業」についてはワカサギの卵の

購入等が続けていることから合わせてつくり育てる漁業の推進としています。

「(2) 漁場環境の保全」では密漁対策、トド等野生動物の被害対策、藻場の育成、漂着流下物対策そして海と山をつなぐ森づくりとを関連させて漁場環境の保全として推進したいと思います。

「(3) 漁港施設の維持・向上」では先程課題のところでも要望がありましたのでそれらを含めていきたいと考えます。

「(4) 地元水産物の消費・流通対策」では、平成30年の道の駅開業により観光するところも増え周遊も見られるようになりましたが、一方で昨今の新型コロナウイルス感染対策による外出自粛要請を受け、インターネットを利用した通信販売といった販路の多様化も求められています。併せて情報発信をすることがPRを含めて重要だと思います。販路の多様化を含めて魚食・食育普及の取り組みについてはアンケートでも要望があるので推進を図りたいと考えています。

「(6) 漁業就業者・担い手の確保」では、アンケートでも説明しましたが事業継承を今後どのような形でできるか検討していく必要があると思います。

資料の訂正箇所があります。「③漁業者支援」の「また、事業継承について、ニーズの把握や事業化に向け漁業者等の意見を聞くなど支援の在り方を検討します。」という文言を49ページ「①新規漁業就業者の受入体制整備と就業者の育成支援」に移動します。51ページ表題の「3 重点事業推進」を「重点推進事業」に訂正します。

「3 重点推進事業」では、本計画においても前段の7分類による体系とそれぞれの取り組みが重要と考えており、これまでの取り組みやアンケートの意向等を踏まえて継続的重点的に取り組むことを重点推進事業として記載しています。3ページ「(2) 目指す姿と体系」で数値目標として漁協漁獲高の記載を取りやめましたが、新規組合員数や主要魚種の放流数と漁獲量、漁業センサスにおける漁獲金額別経営体数の割合といった指標を考えています。

今回いただいた意見の反映や文字の修正などの内容確認を委員長に一任いただきますようお願いいたします。確認後のパブリックコメントに供する計画案については改めて配付いたします。

廣原委員長

・ただ今の「第4章 漁業振興対策」について質問等はありませんか。

佐藤委員

・サケやニシンなどの資源維持について、漁業者が取り組んでいる対策についてもっと深掘りして記載してはいかがでしょうか。

和田委員

・後続資源の確保の部分で、漁期前調査で卵の熟度を調べてから操業体制に入るとか操業期間や網目規制の徹底は毎年しています。

佐藤委員

・この文面だと各種対策が見えないので、他にも取り組みがあるのであれば記載するべきだと思います。

廣原委員長

- ・資源管理、資源増殖を和田委員と事務局とで調整してお願いします。
ハタハタについてもブリコの回収や親魚による自然産卵を行っているので記載するべきと思います。

佐藤委員

- ・今まで当たり前に獲れていたサンマやイカ等が全く獲れなくなってきました。やはり「(1) つくり育てる漁業の推進」という部分は持続可能な各部分において最も重要な項目だと思いますので対策の必要性を感じています。加工原料を集めている立場として、この先漁業は成り立たないのではと非常に強い危機を感じているので取り組みを強化していくことが重要だと思います。

廣原委員長

- ・石狩市に限らなければ、ヒラメについても石狩湾ひらめ栽培漁業振興協議会がありますので増殖の關係に記載してもいいのではないのでしょうか。他に何かございますか。

和田委員

- ・重点推進事業に河川も含めて生息環境保全の取り組みも掲載していただきたい。漁業者はもちろん一般消費者にも自然環境を汚さないという気持ちを醸成していかなければならないと思います。

事務局 相原課長

- ・重点推進事業の中ではあまり触れられていない部分かと思いますが追加を含めて検討します。

廣原委員長

- ・関連して47ページ「③ 藻場育成、磯焼け対策」の中に浜益、古潭で現在行っている産卵床設置についても藻場造成の關係でも深掘して記載してはいかがでしょうか。

野村委員

- ・観光協会でもフェイスブック、ツイッター、ホームページを活用した情報発信を行っています。獲れている魚の情報はお客様が求めていますので、今どんな魚が獲れているかや旬の魚の情報などを漁師や漁組と連携して届けていきたいと思っています。厚田、浜益で集約してくれる方がいれば問い合わせができるのですが。

廣原委員長

- ・浜益地区青年部ではふるさと市場の開催やインターネット通販を行うなど情報発信していますね。情報発信は大事だと思うのでそういう連携は必要かと思います。

鳴海委員

- ・インターネット販売のことも含めてインスタグラムには載せています。

廣原委員長

- ・観光協会と連携して取り組むことで活動が盛り上がると思うので浜益に限らず他地区でも取り組んで

いけばいいと思います。せつかく委員として知り合えたのでお互いに協力できればと思います。計画に記載するかどうかは事務局と相談しなければいけない部分ですが、他に何かありませんか。

藤巻委員

- ・漁期については魚種ごとに決まっているので、漁協に聞いてもらえばわかります。

廣原委員長

- ・情報発信については各青年部から観光協会にお知らせいただければと思います。連携をよろしく願います。指導機関として指導所から何かありますか。

伊藤委員

- ・資源があっても獲る人がいないと始まらないので、担い手対策の部分で 50 ページの「事業継承について、ニーズの把握や事業化に向け漁業者等の意見を聞くなど支援の在り方を検討します。」とありますが、担い手対策を活性化して具体化させていくような表現が必要だと思います。

廣原委員長

- ・49 ページ「① 新規漁業就業者の受け入れ体制と整備と就業者の育成支援」にもつながると思います。これから 10 年後どれだけ漁業者が減少していくかわからないですが後継者も含めて、I ターン U ターン J ターンというの視野に入れていかなければと思います。

伊藤委員

- ・礼文島に 3 年間いた経験から、受け入れる親方と新たに入って来る人のマッチングや、初期投資に係る部分があるので各種の支援体制や地域とのコミュニティの形成や定住への取り組みについても支援が必要だと思います。

事務局 相原課長

- ・農業、漁業の新規参入はなかなか難しいという事が課題としてあるが、漁業については受け入れる親方の下で研修をする必要があるなど、受け入れる側の漁業者の体制整備も必要なので漁協を含めて話をする必要があると思います。

廣原委員長

- ・行政側として蛭谷委員ございますか。

蛭谷委員

- ・33 ページの「水産基盤整備事業」に魚礁設置事業がありますが、ハタハタの増殖事業も実施していますので、なにか載せない理由があったのですか。

事務局 相原課長

- ・載せない理由は特にないです。載せるべきだと思います。

廣原委員長

- ・追加をお願いします。他に何かありませんか。計画の訂正について、先程事務局からも説明がありましたが、計画の変更を受けて事務局と私の方で最終版を作りたいと思います。

委員一同

- ・はい

木村委員

- ・古潭漁港の間口部分の消波ブロックが移動しており出入港時に支障をきたすこともあります。漁業者も真っ直ぐ出られるようにテトラを削るとか色々なアイデアが出ています。計画の整備要望も入れて欲しいです。

廣原委員長

- ・消波ブロックの改修の要望ですね。計画に入れてもらうようお願いします。他に何かありますか。その他について事務局から何かありますか。

事務局 相原課長

- ・その他についてはございません。

廣原委員長

- ・委員の方からもその他について何かありませんか。

閉会

- ・省略

令和4年 1月 7日議事録確認
第3次石狩市漁業振興計画策定委員会
委員長

廣原 正志